

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202424		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート常盤平 (1階)		
所在地	千葉県松戸市常盤平1-13-7		
自己評価作成日	平成28年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成28年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の生活を施設内だけで完結させず、地域行事や買物などへ参加して施設を取り巻く地域で生活していると感じて頂けるように努めています。
また、常勤職員を中心に創意工夫や意見交換を行ない、日々の生活の中にADLの維持・向上できるような取り組みを実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社の社是、経営理念、心得を事務所内に掲示しているほか、毎月の拠点会議で唱和に取り組む、職員の理解が深まるように取り組んでいる。また事業所として「身体拘束を一切しない」事を直近の目標に掲げている。日々の支援では、今年度外出頻度を高めていく事を目標に掲げ、天候のよい日には周辺の散歩にお連れしたり近隣のお店への買い物のほか、外出行事としてお花見やイチゴ狩り、県内外の観光名所にも積極的に外出している。また、新人職員に対しての教育プログラムも充実させながら、早期離職の防止にも努めている。今後も利用者の活動性を高め、生活の活性化に一丸となり取り組んでいく姿勢が確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護に対する考え方は職員間で異なるが、一企業として根幹にある考え方は何か、という点で社是・理念・心得の唱和を行ない事業所としての方向性がぶれないように努めている。	会社の社是、経営理念、心得を事務所内に掲示しているほか、毎月の拠点会議で唱和に取り組み、職員の理解が深まるように取り組んでいる。また事業所として「身体拘束を一切しない」事を直近の目標に掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の買い物や散歩のほか、夜間パトロールや祭りなどの地域行事に参加して地域住民との交流を構築している。	近隣で開催されるお祭りへの参加、近隣の薬局などへの買い物を通じて地域と交流できる機会を確保している。近隣の診療所や病院、民生委員との関係作りに努め、利用者との交流に繋げていけるように取り組んでいる。	地域との関係作りに前向きに取り組んでいるが、今後に向けては、地域のボランティアとの交流なども拡がっていく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を含め、お問い合わせを頂いた際はこちらのご利用の可能性の有無にかかわらず、ご納得頂けるよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、事業所からの運営状況報告のほかに参加者からの意見を頂いてサービス向上に努めている。他施設の運営推進会議にも積極的に参加し、取り組み事例を持ちかえっている。	会議には地域包括支援センター、民生委員、介護相談員、診療所、家族等の参加受け、2ヶ月に一度実施している。事業所の運営状況や行事報告のほか、参加者から意見や提案を受けサービス向上に繋げていけるよう努めている。	運営推進会議には地域の関係機関等の参加が見られるが、今後は自治会や地域住民の参加が得られると良いであろう。今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは日頃から連絡を取り合い、情報交換を実施している。	運営上の疑問点や行政の判断を仰ぐ必要が生じた際には、担当課に連絡を入れ指示を仰いでいる。また、市の担当課も運営推進会議に参加する事もあり、事業所の状況を共有できるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束を行なわない事が当たり前という考えが根付いている。毎年、身体拘束に係る研修を行なっている。	事業所での内部研修において「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」についてを行い、職員の意識を高めている。「身体拘束ゼロ」を事業所の目標に掲げ、現状拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拠点会議において様々な虐待の事例を示し座学による勉強会を実施している。意図せず悪気のない虐待が発生しないよう、職員の間でも日々啓蒙している		

グループホームガーデンコート常盤平(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	拠点会議において研修を実施し、制度に関しての理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせ、見学、契約締結の際も常にご不明な点を伺っている。またいつでもお問い合わせ頂けるよう、周知している、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の電話連絡や面会のほか、運営推進会議における意見の取りまとめを行ない、よりより運営を行えるよう努めている。	家族からの意向や要望は面会時やケアプラン説明の際に個別で確認している。また年に一度「お客様アンケート」を実施し、運営上の意向や要望を定期的に確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談を実施し、意見の取り入れを行なっている。	職員からの意見や提案の収集については、毎月の拠点会議時に確認し、業務や支援の見直しにつなげている。また、管理者との個別面談も順次開始し、個別に意見や要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の面談を実施し、意見の取り入れを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加しています。また、リーダーを中心に現場の諸問題を解決していく環境整備に着手しております。拠点会議の他に各ユニット毎に月1で会議を行い、ケアについての疑問点や問題点を相互に出し合い改善していく機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外研修への参加をし、吸収できる機会を設けています。		

グループホームガーデンコート常盤平(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のペースにあわせ、傾聴する事を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	形式にとらわれず、雑談の中から情報を聴取し、関係の構築に取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見聴取から提案をし、その時々に応じた必要なサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事を無理強いするのではなく、出来る事をいかに発揮出来るかを重点においてケアしている。また、他者交流も行えるよう、スタッフが常にいる体制にし、スタッフも交えながらより良い関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に日々のご報告をさせて頂くほか、なかなか来られないご家族には電話での報告を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊は原則自由であるので、その方の旧友等の面会等も見受けられる。	馴染みの人や場所との関係性が途切れることが無いように、友人の来訪を受け入れたり、家族と一緒に外出をしたり、通い慣れた美容室に出かける等、関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や掃除等も皆で協力し合っている光景が毎日見られる。		

グループホームガーデンコート常盤平(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状は出来ていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者を中心に担当者会議やケース検討会議で把握するように努めている。また日々の暮らしの中でこんな事があった等申し送り等を通じ、情報の共有に努めている。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者を中心に担当者会議やケース検討会議で把握するように努めている。また日々の暮らしの中でこんな事があった等申し送り等を通じ、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画作成担当者を中心に担当者会議やケース検討会議で把握するように努めている。また日々の暮らしの中でこんな事があった等申し送り等を通じ、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ご本人様やご家族様、主治医や現場職員と話し合い、ケアプラン作成にあたっている。	アセスメントにおいて利用者の現状及び課題を抽出し、アセスメントで得た情報を基に担当者会議において利用者、職員から意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを立案している。ケアプランの状況は毎月モニタリングを行い、目標の達成度を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に落としている。その記録を基に、事務方を含め情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能をご利用のお客様との交流を行ったり、ユニットだけではなく、全体でレクリエーションを行ったりしている。		

グループホームガーデンコート常盤平(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周囲の公園への散歩や、神社へのお参り、町会でのパトロール等に出向き、交流を持ったり等地域交流が出来る環境を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は往診が可能である。他科受診、ご家族様が通院に行く際は、必要に応じて、施設の様子等情報提供を行うか通院同行するように努めている。	提携医療機関の往診が月2回あるほか、提携外の医療機関の受診については、本人及び家族等の希望を大切に、受診できるように支援しており、必要時に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能の看護師がいる為、介護職員や事務方と情報の共有を図り、往診や通院時医師に情報をつなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	希望者に関して定期往診があります。往診が無い日で状況の変化が表れた場合等、報告・相談を密にし、対応に関して協議し悪化防止に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の方がいないため、看取り取り組みはしていない。今後、状況、状態により重度化、終末期への変化があった場合、ケアの対応について関係各位を交えて話し合う場を設けベストな対応を行いたいと考えている。	重度化や終末期の方針に関しては、契約時において方針を説明し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。重度化が見られる場合は、家族や主治医と再度話し合いを行い、今後の方針を検討していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生した事案は報告書を掲示し情報の共有、対策方法の検討を行っている。備えとしては、手薄になる夜間帯に何かあった場合でも事務方や当直者を立て、対応にあたることにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は夜間想定避難訓練を行った。今冬に消防署を呼び避難訓練を実施します。地域で災害が起きた場合でも、可能な限り受入は可能である。	火災を想定し、初期消火、通報、避難誘導訓練を平成27年9月に実施している。避難完了まで6分程度要している。水害状況についてはハザードマップを掲示し確認している。現状、地域の協力体制について課題となっている。	今後に向けては地域の協力体制の確保のほか、災害時に備え備蓄品の確保や災害発生後、家族に対して利用者の安否をどのように伝えていくか連絡方法についてより明確になる事が望まれる。

グループホームガーデンコート常盤平(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様に対し、馴れ馴れしくならないように、また、冷たい対応を取らないよう声かけや接遇に気をつけ、尊厳を損なわないよう対応している。	事業所内において「認知症について考える」について内部研修を実施している。日々の支援では、利用者に対して最低限度のマナーを守り対応し、居室への入室もノックをし一歩かけてからの入室を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースや日々の状態の変化に合わせて希望を叶えるよう創意工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの導線上、食事時間と入浴時間は定めているが、その他の時間に関しては、自由に楽しんで頂いたり、お客様ご自身のペースや希望に合わせたゆとりを持たせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容の援助をしている。また、定期的に訪問理容を入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で一緒に準備、片付けを行っていただき、一緒に昼食をとっており、毎日の日課になっている。	食事の準備や後片付けにはできる限り利用者にもかかわって頂き、職員と一緒に準備や後片付けを進めている。食事を楽しむ工夫としては、月に一度外出できるように取り組み、普段とは違う雰囲気ですぐに食事が出来るように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社、栄養士が入っていて、カロリー計算等が出来ている献立になっている。その反面、個々の要望にお応え出来る事が困難な場合もある。咀嚼、嚥下の能力をアセスメントし、その方にあった提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや介助をし口腔ケアを実施している。食前の嚥下体操も実施している。必要な方は訪問歯科で定期的に口腔内の状態確認をしている。		

グループホームガーデンコート常盤平(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	GHに入居し、排泄具を取り除いた例もあるが、逆に使用した方もいる。誘導等困難な方もいるが、成功事例を共有し、出来るだけトイレで排泄をして頂けるようにしている。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌に水分摂取量や排泄に関する記録を残し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の記録からデータを採取し、薬に頼らず食事改善や捕食等でコントロールしている。排泄状況は毎日2回必須で申し送りしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	導線上、入浴時間の設定はしているが、毎日入浴できる環境は整えている。拒否の方には、無理強いせず、納得して入浴できるよう支援している。	利用者の体調やタイミングを考慮し、週2~3回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、転倒等が生じないように安全面には十分に配慮している。また、菖蒲湯やゆず湯など季節風呂を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠パターンを把握し、快適に休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、管理者が行っている。往診時、薬剤師も同行し、お客様へ説明している。変更等があれば、ご家族様に連絡し、経過観察をし、状況報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で行う、少人数で行う、個別に行うの3パターンがあり、その日、その時の状態状況により余暇を楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節、気候にもよるが、近隣の公園へ散歩したり、買い物や外食を行い、気分転換を図っている。	天候のよい日には周辺の散歩にお連れしたり近隣のお店に買い物に出かけている。また外出行事としてお花見やイチゴ狩り、県内外の観光名所にも積極的に外出している。また家族の協力も得て年末に自宅に戻れる方もいる。	定期的に外出行事を実施し、様々な場所に出かけられるように支援しているが、今後は日常生活の中でも利用者の状態を考慮し外出が増やせると良いであろう。

グループホームガーデンコート常盤平(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社の規定により原則事務で一括管理をしているが、買物時は同行する職員に預け、買物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く機会はないが、本人や家族のご希望で電話をしたり取り次いだりする事は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように装飾作りをスタッフと共にしている。日中の午前、午後と夜間の掃除、環境整備を行っている。	共用の空間は、ご利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになるスペースはないが、気の合う同士関わりを持ったり、併設の小規模多機能のお客様との交流をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則、火災につながるものの持込は禁止しているが、その他の持込品については危険が無ければ原則自由であり、馴染みの物をご持参頂いている。ご本人様の要望に応じ、入居後も必要な品物を購入することも可能です。	居室は、ご利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、ご利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、バリアフリーの設計である。お客様の安全を確保しながら、自立した生活が送れるようになっている。		